

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	79	人
② 算数	79	人
③ 理科	79	人

5 留意事項

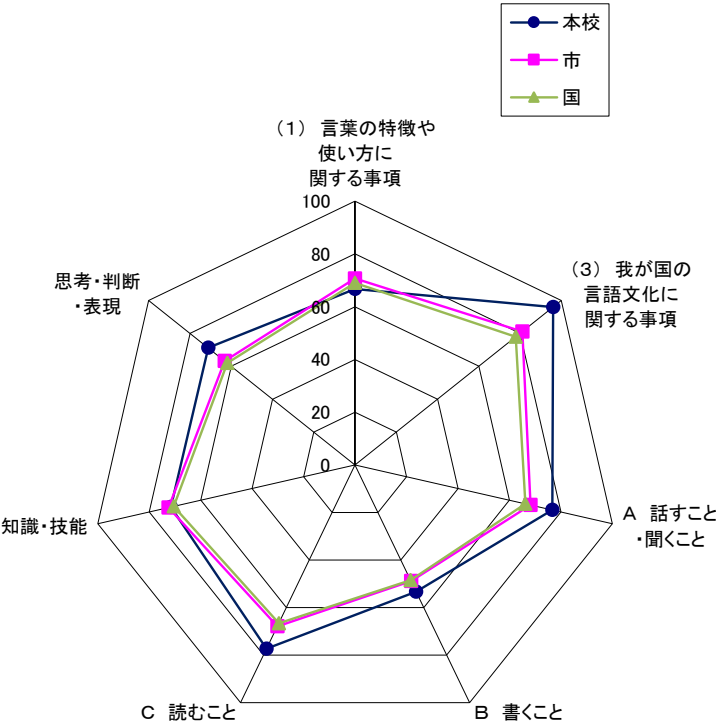
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立峰小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.7	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	96.0	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	76.7	68.2	66.2
	B 書くこと	53.3	48.9	48.5
	C 読むこと	77.3	67.9	66.6
観点	知識・技能	71.6	72.5	70.5
	思考・判断・表現	71.2	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

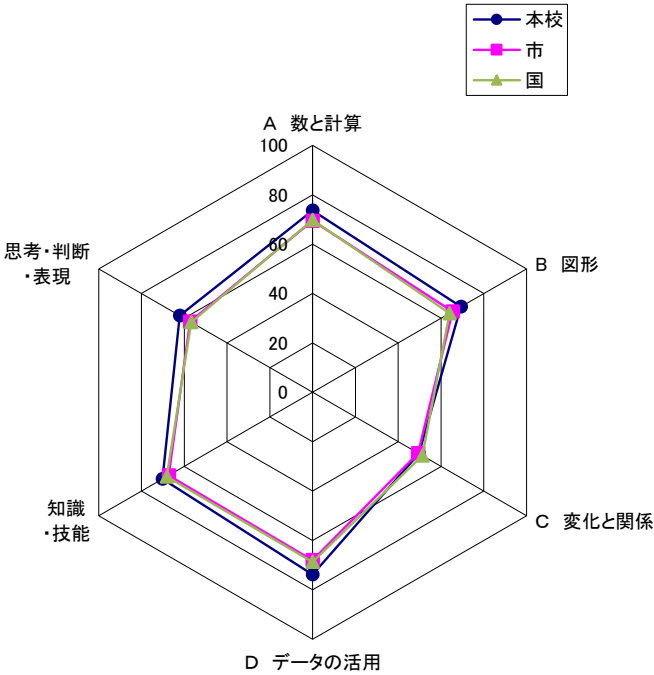
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は66.7%であり、全国及び市の正答率を約3ポイント下回っている。 ○話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題では、県や全国の平均を上回った。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題では、全国及び市の正答率を約7ポイント下回った。 ●無回答率が、約18%の問題がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習の漢字については、繰り返し漢字練習をすると共に、文章を書くときに漢字を使って書くよう引き続き指導していく。 ・板書をする際には、話し言葉と書き言葉を使い分けて書き、その違いを児童へも説明する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○手紙に書かれている漢字や仮名の大きさや配列に注意して書く問題の平均正答率は96%であり、全国及び市の正答率を15ポイント以上上回っている。	・書写の時間に漢字の大きさやバランスを意識して書いたり、手紙を書く機会を設けたりし、相手が読みやすい文章を考えて書くよう指導していく。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は、76.7%で全国及び市の正答率を約10ポイント上回った。 ○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや聞き手が聞きたいことの中心を捉える問題の正答率は96%であり、県や全国の平均を上回った。 ○互いの立場や意図を明確にして、相手の立場になって自分の考えをまとめる問題の正答率は、約57%であり、県や全国の平均を大きく上回った。	・自分の考えを伝える際には、話の内容が明確になるよう構成を考え、相手の考えを聞く際には何を伝えたいのかを理解するよう助言する。相手の考えを聞いて不明な点があった際には、質問するなど主体的で対話的な学びとなるよう指導していく。
B 書くこと	○平均正答率は、53.3%で全国及び市の正答率を約5ポイント上回った。 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を捉える問題や文章に対する感想や意見を伝えあい、書き手の文章のよいところを見付けて書く問題の正答率は41%で県や全国の平均を上回った。 ●書き手の文章のよいところを見付けて書く問題の無回答率は14.7%であり、県や全国の平均を上回った。	・国語の時間だけではなく、各教科において自分の考えを書く機会を設けていく。また、筋の通った内容となるよう、自分の考えだけではなく、理由や根拠を明確にして書くよう指導していく。 ・無回答の児童には、「～と考える」などの文末表現や「なぜなら～」などの接続詞を示すなどして書かせるようにするなど、つまづきに応じた助言をする。
C 読むこと	○平均正答率は、77.3%で全国及び市の正答率を約10ポイント上回った。 ●登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題の正答率は、県の平均は上回ったが全国の平均を下回った。 ○登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題、人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題、表現の効果を考える問題の正答率は、県や全国の平均を大きく上回った。	・物語文を読む際には、場面ごとの登場人物の心情について分かる言葉が何か考えるよう指導していく。 ・物語の中心となる場面を捉えて、内容を簡潔に要約できるよう指導し、物語の全体像を具体的に想像する力を育む。

宇都宮市立峰小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	73.6	69.5	69.8
	B 図形	69.3	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	49.7	49.3	51.3
	D データの活用	73.8	68.0	68.7
観点	知識・技能	70.2	67.3	68.2
	思考・判断・表現	62.1	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

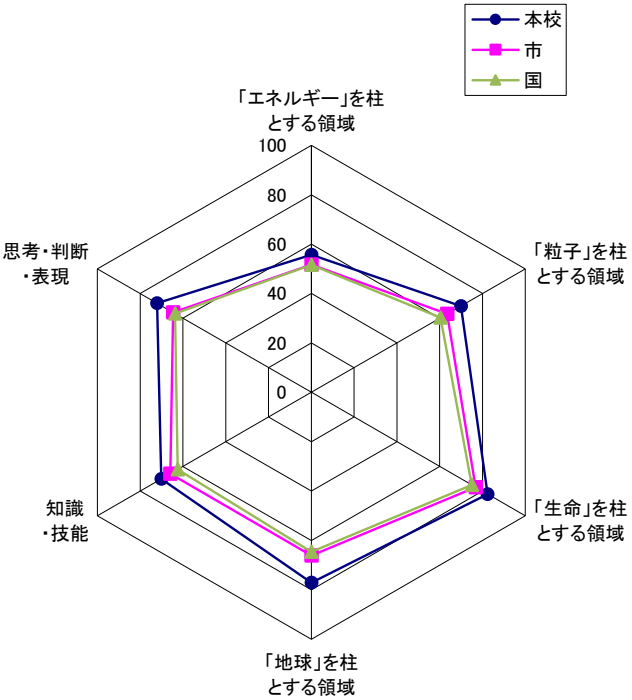
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は73.6%であり、市の正答率を4.1ポイント上回っている。 ○「14と21の最小公倍数を求める」設問の正答率は84.0%であり、県よりも11.0ポイント上回っている。 ○●「1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く」設問の正答率は73.3%であり、県よりも6.7ポイント上回っているが、無回答率が8.0%となっている。	・加減乗除に関わる計算は、今後も計算の順序のきまりを繰り返し指導し、反復練習を行って定着を図る。 ・「単位量あたりの大きさ」については、グラフから読み取れる基準量と比較量、割合を繰り返し確認し、基準量を1として割合、比較量を計算する意味や計算の仕方を丁寧に指導し、理解の深化を図る。
B 図形	○平均正答率は69.3%であり、市の正答率を3.9ポイント上回っている。 ○「辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ」設問の正答率は74.7%であり、県よりも8.8ポイント上回っている。 ●「示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ」設問の無回答率が5.3%となっている。	・平行四辺形では、隣り合う角度の和が180度になるなどの、図形の構成要素や性質について、繰り返し指導し、作図に繋げていく。 ・図形の学習では、三角定規を組み合わせる垂直、平行をかくという基本が定着されていることを確認した上で、様々な三角形や四角形を正確にかけられるように、今後も用具を使った活動を多く取り入れるようにする。
C 変化と関係	○平均正答率は49.7%であり、市の正答率を0.4ポイント上回っている。 ○「果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180ml入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く」設問の正答率は52.0%であり、県よりも5.9ポイント上回っている。 ●「果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ」設問の正答率は13.3%であり、県よりも4.3ポイント下回っている。	・「割合」については、基準量と比較量がともに半分になっても割合は変わらないなどの数量関係を、図や数直線に表すことができるように繰り返し指導し、文章問題の理解が深まるようにする。 ・復習問題のプリントを活用し、割合の学習内容についての定着を図る。
D データの活用	○平均正答率は73.8%であり、市の正答率を5.8ポイント上回っている。 ○「分類整理されたデータから、全員希望が一つは通るように、遊びを選ぶ」設問の正答率は77.3%であり、県よりも14.3ポイント上回っている。 ○「1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ」設問の正答率は72.0%であり、県よりも7.8ポイント上回っている。	・目的に応じてグラフを選択したりデータの特徴を捉えたりして、必要な情報を読み取ることができるので、算数科だけではなく社会科や総合的な学習の時間など、他の学習でもその力を生かしていけるように指導していく。

宇都宮市立峰小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	55.7	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	69.9	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	82.4	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	77.1	66.1	64.6
観点	知識・技能	70.2	65.9	62.5
	思考・判断・表現	72.1	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は、市、全国の平均を4ポイント程度上回っている。 ○鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く問題の正答率は、県、全国の平均を10ポイント以上、上回っている。 ●無回答率が18.7%の設問がある。	・実験の結果から何が分かるのか、教科書の言葉などを手掛かりにしながら、自分の言葉で書くことができるよう、普段の授業で指導を行っていく。 ・実験で行ったことが日常生活のどんな場面で見られるのか、関連付けて指導することで、習熟を深める。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は、市の平均を6ポイント、全国の平均を9ポイント程度上回っている。 ○一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く問題の正答率は、県、全国の平均を10ポイント以上上回っている。	・実験に使用する器具について、グループで実験を行う際も、一人一人に直接触れさせることで、正しい扱い方を丁寧に指導していく。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は、市の平均を5ポイント、全国の平均を7ポイント程度上回っている。 ○資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ問題の正答率は、県、全国の平均を10ポイント以上上回っている。	・ヒトや動物の体のつくりやはたらきに興味関心をもてるよう、模型や、デジタルコンテンツを利用しながら、視覚的にわかりやすく指導を行っていく。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は、市、全国の平均を10ポイント以上上回っている。 ○夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題の正答率は、県、全国の平均を15ポイント以上上回っている。	・実験結果から考察する際には、一つのデータではなく、複数のデータを参考にして考えることを今後も指導していく。

宇都宮市立峰小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。」と回答した児童の割合は、94.9%で、県平均を7.5ポイント上回っている。「いじめゼロ強調月間」でいじめを取り上げた道徳の授業を行ったり、一人一人がいじめゼロのスローガンを書いたり、いじめについて考える活動を行い、いじめはいけないという意識を学校全体で共有できている成果であると考えられる。今後もいじめゼロ強調月間の時はもちろん、いじめは絶対にいけないという意識を日頃からもてるように、教育活動全体を通して指導していく。

○「学校で、授業中に自分で調べる場面・友達と意見を交換する場面・自分の考えをまとめ発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を毎日使っている」と回答した児童の割合は、3つの質問ともに県平均を10ポイント以上上回っており、また「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を毎日使っている」と回答した児童の割合は、県平均を38.6ポイント上回っている。今後も、宿題や授業の中で効果的な使い方を考え、学習に役立つ有効的なツールとして使用していく。

○「人の役に立つ人間になりたいと思う。」と回答した児童は87.3%で、県平均を10.5ポイント上回っている。未来キャリアパスポートの活用やキャリア教育を通して、将来の自分の姿を思い描くことができていると考えられる。また、最高学年として下級生の世話をしたり学校全体の仕事に責任をもって取り組んだりする経験ができていることも、将来に役立っていると言える。今後、更に様々な教科において夢に向けて努力している事例にふれさせたり憧れの人についてタブレットを使って調べ学習をさせたりしていく。

●「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。」と回答した児童の割合は、27.8%で、県平均を8.1ポイント下回っている。また、「算数の勉強は好き」と回答した児童の割合も34.2%と、県平均を1.8ポイント下回っている。今調査の算数科の結果は、全ての項目が市の平均を上回っており、学習内容はよく理解できていると言えるので、今後は習熟度別の授業の中で、既習事項が生活のどのような場面で活用できるかを具体的に考えさせ、生活の中で使える楽しさや便利さについて指導していく。

●「家で自分で計画を立ててよく勉強をしている」と回答した児童の割合は、25.3%で、県平均を6.4ポイント下回っている。自主学习カードに、毎日の自主学习の内容や取り組んだ時間を記録させたり自主学习ノートのまとめ方を提示したりして、中学校に向けて自分で計画的に授業内容の予習や復習ができるように励ましていく。

宇都宮市立峰小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
理由や根拠を明確にし、自分の考えを分かりやすく文章に書き表す力の育成	各学年の実態に応じて、題材や内容項目、字数などの条件に合わせた作文指導を行うとともに、様々な場面で理由や根拠を書かせる指導の充実を図っている。また、一人一台端末の共有機能を活用することで、自分の考えを書くことが苦手な児童も友達の見解を参考にしながら文章を作成できるよう指導している。	国語科の「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」問題の正答率は65.3%で、県の平均と比べて7.7ポイント上回っており、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題の正答率は、県の平均と比べて1.5ポイント上回っていたが、無回答率が、それぞれ0.4ポイント、2.7ポイント、県の平均よりも高かった。理科の「問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果をもとにして書く」問題の正答率は、県の平均と比べて0.3ポイント、全国の平均と比べて1.8ポイント下回っており、無回答率は県の平均より8ポイント、全国の平均より7.5ポイント高かった。
「家庭学習の手引き」の活用や「家庭学習がんばり週間」の実施による家庭学習の習慣化	年度初めに「家庭学習の手引き」を配付し、曜日ごとの学習時間の予定を立てさせるなどして、計画的な学習を意識させている。また、「家庭学習がんばり週間」を設け、「家庭学習記録カード」に学習内容やふり返りを記録させることで、計画を立てて家庭学習に取り組めるよう促している。	「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という質問に対して「よくしている」と回答した児童の割合は、25.3%で、県平均を6.4ポイント、全国平均を2.2ポイント下回っている。「学校の授業時間以外に、1日当たりどのぐらいの時間、勉強をしますか」という質問に、宇都宮市が定めている1時間以上と解答している児童の割合は、平日（月曜日から金曜日）が60.8%、休日（土曜日・日曜日）が53.2%であり、平日は県平均よりも7.1ポイント、休日は13.7ポイント下回っている。